

平成28年度オーストラリア連邦派遣日本武道代表団報告

田中ひかる（近畿大学経営学部教養・基礎教育部門）

1. はじめに

本事業は、日豪友好協力基本条約調印40周年事業（主催：公益財団法人日本武道館・日本武道協議会；後援：スポーツ庁・外務省）の一環として、現代武道（9道）と古武道（3流派）からなる日本武道代表団が平成28年11月9日から16日までオーストラリア連邦へ派遣された。

私は全日本なぎなた連盟から推薦いただき日本武道代表団の一員として参加することとなった。初日は、日本武道館にて日本武道代表団の結団式が行われ、日本武道館館長の松永光氏および理事長の白井日出男団長から挨拶があり、全日本なぎなた連盟からは泉水孝子理事の激励をいただいた後、同日の夜の便で日本を出国した。

2. 表敬訪問と日本人学校でのミニ演武

オーストラリアは日本との時間差が2時間、季節は日本と逆でジャカラング（初夏を表す紫色の花）が満開になる1年の間で最も過ごしやすい気候だった。シドニー空港に着いた代表団は、ホテルの部屋に荷物を置き、2グループに分かれて出発した。三浦利枝子代表（和歌山県なぎなた連盟、以下和歌山）は、他の団員代表者とともにニューサウスウェールズ州スポーツ庁と日本領事館を訪問した。

もう1グループは、ミニ演武会実施のため、廣瀬幸子（兵庫）、天川彰子・田中ひかる（大阪）、山本千代（和歌山）、田村佳奈子（奈良）の5名が他の武道団員とともにシドニー日本人学校に向かった。

このシドニー日本人学校は、幼稚園から小・中学生までの、およそ240名の子ども達（インターナショナルクラスを含む）が在籍している。全校生徒とその保護者が13時30分に体育館に集まり、授業の一環として私たちの演武を観覧し、私たちが館内に入場すると拍手喝采で迎え入れた。なぎなたの演

舞時間は5分間で、八方振り（上下・斜め・横など順に決められた動き、打突に必要な基本を身につける素振り動作）と仕かけ応じを披露した。初めて間近で武道を見た子ども達は、目を大きく見張り、喜びと驚きを声や手で表現し、私たちが自然に笑みがこぼれた（写真1）。



写真1. 日本人学校にて

3. 武道文化セミナーと日本人領事館訪問

11月11日（3日目）、団員全員は朝からニューサウスウェールズ大学へ武道文化セミナー開催のためホテルを出発した。午前中は、各道の入念なりハールサルが行われ、14時から武道セミナーが開催された。教員や大学生のほかに300km離れた（バスで片道4時間）オレンジ市からも中学生が駆けつけ、最後まで参加した。

同日の夕刻からは、日本領事館主催のウェルカムパーティーが開催され、竹若敬三総領事をはじめ、スポーツ庁局長の先生方にも歓迎のご挨拶をいただき、豪州の武道連盟の方々との親交を深めることができた。その場は、豪州なぎなた連盟（以下、豪な連）会長マサコ・ストレンジャー先生をはじめ、会員の皆さまと、シドニーに来てから初めての顔合わせとなった。

4. 交流稽古

11月12日(土)は、シドニー大学スポーツアクアティックセンターで交流稽古会が開催された。豪な連の会員をはじめ、なぎなた愛好者などが参加し、午前中は廣瀬団員の指揮で八方振りと基本打突を入念に稽古した。演技は段級ごとにグループに分かれて行い、正しい打ちと応じを確認した。午後からは、防具をつけて、代表団の4名が一人ずつ得意技を紹介し、相対になって交互に技の稽古を繰り返し、最後に地稽古(お互いに試合をする気持ちで技を競い合う稽古)を行った。



写真3. リズムなぎなた演武披露

5. 武道演武会およびワークショップ

11月13日(日)は、本事業のメインイベントである武道演武会が、オリンピックパークの小ホールで開催された。早朝、ホテルを出発し、会場に到着するとすぐに記念撮影とリハーサルが始まった。演武は、前半6道が行ったあと休憩を挟み、後半の1番目がなぎなたの演武だった。演武時間は8分間で、立つ位置の確認から音量の確認まで、秒単位で時間を調整する入念なりハーサルを行った。

開会式は14時から行われ、当初は三百名ほどの観客を想定していたが、徐々に人が集まり、最終的には二千名以上の観客が来場する盛況ぶりだった。

なぎなたの演武は、はじめに試合を行った(審判:廣瀬, 山本 対 田村, 山本 対 田中)あと、演技6・7・8本目(仕かけ:天川・応じ:廣瀬)を行い、最後にリズムなぎなた「さくらさくら」を披露した(写真2,3)。



写真2. 武道演武会の会場にて

その後のワークショップでは、防具を着けた3名の団員に向かって「振り上げて面」を打つ体験会を行った。順番を待つ長蛇の列ができ、時間が過ぎても帰らない子どもが三浦代表と山本団員のもとに「Can I do it?」と話しかけてきた。「Time over.」と答えても泣きそうな顔で帰らないため、介助付きで面を打たせたが、それだけでは満足できず、自分一人で面を打つところまで体験し、泣き顔は笑顔に変わった。

6. 解団式および郊外視察

11月14日(月)は朝から自由行動のため、シドニーから西へバスで2時間乗車し、世界遺産であるブルーマウンテンズへ向かった。ブルーマウンテンの語源はユーカリの葉から蒸発したオイル成分が大気中で青ずみ、この辺りの空は青みがかって見えることからその名がついたと言われている。エコポイントのスリーシスターズの岩山の広がるパノラマの景色を堪能し、午後からは市内に戻り、住宅街にある動物園を訪れコアラと記念撮影、最後にお土産店で買い物をした後、解団式への会場へ移動した。

解団式では、白井団長の挨拶の後、各武道団の代表者が一人ずつ挨拶した。三浦代表は、「ワークショップの終了時間が過ぎても、なぎなたへの興味が尽きない様子の子どもの印象に残ったこと、世界への発信とともに、日本においても『なぎなた』をもっと多くの方に広めていくことが今後の課題である」と述べた。

7. 帰国の途へ

シドニー滞在の最終日は、午前中のみシドニー市内を観光した。オペラハウスの中では市の交響楽団の練習しているなかで建物の構造システムを学ぶことができた。

代表团は同日、夜の便にてシドニーを立ち、11月16日の早朝に帰国し、成田空港にて一同解散となった。

8. おわりに

コーディネーターのアレキサンダー・ベネット氏（関西大学 教授）は、「演武会での素晴らしい反応がSNSで世界中に発信されて大きな反響があったこと、オーストラリアの方々と感動・喜びを共有できたことで、やはり武道には人を引き付ける力があるということが再確認できた。武道にはソフトパワーとハードパワーの性質があり、それらはパラドックス（相反する性質を持っている）とされるが、その両者は矛盾しているようで両立する。それが『武道は文化であり世界遺産である』ゆえんである」と述べた。

今回の派遣に際し、オーストラリアで武道の素晴らしさを改めて実感することが出来、このような機会をいただいた関係の皆様に関心と心より感謝し、報告とさせていただきます。